

ひよこぐみで巻き起こった たこブーム！

きっかけ



友達とイメージの共有



そのころ、お部屋では魚釣り遊びを楽しむ子どもたちもいました。先生と一緒につくった釣り竿で海の生き物を釣る遊びを繰り返し楽しんでいます。

こちらは、はさみでチョキチョキ。一回切りに夢中。細長い紙を手にとちまちたくさんの切り紙ができました。

経験



ヒラメキ

その場にあった紙皿の上に切り紙をパラパラっとのせると…「あ、これ、たこのえさみたいや」一人の気づきに周りの子が盛り上がります。「たこのえさ！たこのえさ！」



たこさん海に泳がせよう！たこさんにえさあげよう！

友達が家から持ってきた紙コップでできた不思議な物体にみんなの視線が釘付けに。「何それ？」「ほしい！」と集まってきます。「たこだよ」と言う友達に「たこって何？」「たこってどなん？」「どこにいるん？」一人一人のイメージはみんなそれぞれ。「作りたーい！」さっそくみんな紙コップを手に取り作り始めました。



子どもってスゴイ!! -遊びを楽しくするためにいいこと考えた！-

ちょっとしたきっかけがクラスの遊びへとつながります。子どもの世界はいつだって夢が溢れるファンタジーの世界。想像力を働かせヒラメキが生まれ、どんどん楽しく変化していきます。彩りあふれる遊びの世界です。

子どもも大人も どろだんごに夢中！

きっかけ



一人黙々と泥団子を作っていたAちゃん。先生に見てほしくて「先生、見て」と持ってきたその手には、まんまるの「つるピカ泥団子」が！
あまりにもきれいなお団子さん。教師は、Aちゃんにふわふわのベッド（綿）を準備し、大事に保管できるようにしました。



たちまち、クラスの友達に泥団子づくりが広がります。先生だって本気です。

どうやったらAちゃんみたいにできるんだろう。初めての泥団子作り。“うまくてきひん！”“もーいや！”“先生、やって！！”と泥団子づくり名人への道は、想像以上に険しいのです。“できた！”と思ったら、壊れてしまうことも…。

“きれいなお団子作りたい”という強い思いがあったからこそ“悔しい”“悲しい”思いが生まれ、やりたい気持ちとの葛藤が始まります。怒ったり泣いたりしながらも自分自身で決めて考えて乗り越えていく姿はともたくましく輝いて見えました。



土・砂・泥質の違いの不思議を感じる

子どもってスゴイ！！

—友達とならできる・自分もできる—

うまくてきたり、できなかったり、思い通りにならない毎日乗り越え挑戦し続ける子どもたち。

自分とモノとの対話

友達、先生がいるからこそ生まれる「やってみよう！」とする気持ち。



一人一人の思いがぶつかる きゅうり会議

きっかけ



「むらさきグループのきゅうりができてる！」
「グループの友達呼びに行こう！」

だれが採る？だれが持って帰る？
どうやって決める？

じゃんけんする？
いやや

歯が抜けてる人にする？
そんなんずるい

おにごっこで鬼決めるみたい
にするのはどう？
いいやん、やってみよ

ひとつひとつにひっかかり
そのたび
友達の提案
に自分の思
いを考えを
伝える。



問題解決のために考える

豊富な語彙

子どもってスゴイ!! 一答えはいつもひとつじゃないー

子どもたちだけで30分以上続いた会議。いったい何故こんなにきゅうりを収穫するだけで時間がかかるのでしょうか。だって、自分たちで育ててきたきゅうりだから。美味しいきゅうりになるように育ててきたから。栽培物を育てることで食べること、生きること、自分の命とのつながりをそれぞれが感じています。

これまでの知識と経験の中で身についた知恵を振り絞り、相手が納得する方法を考えます。大人顔負け、プレゼンテーションカに驚きです。